

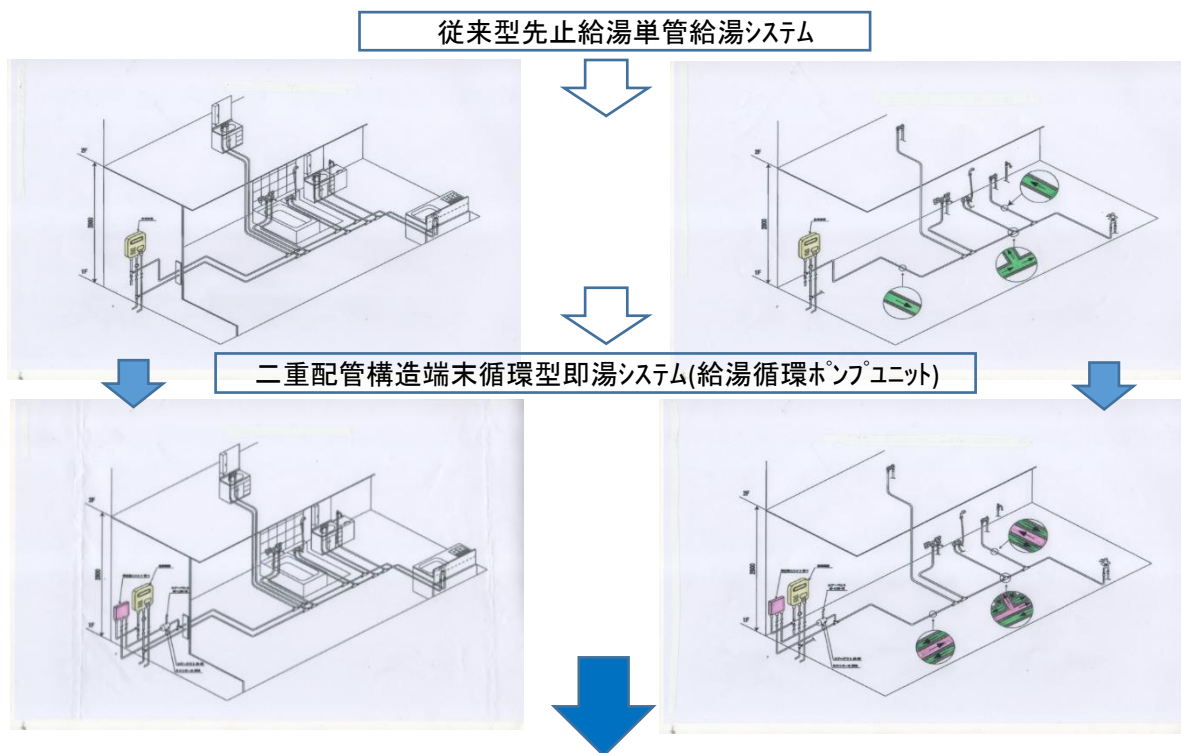
(継続提案)

NO.	8	技術開発提案名	二重配管構造の給湯新配管システム等の技術開発		
事業者	HPリビングライフ株式会社 カサイエレック株式会社				
技術開発経費の総額(予定)	約	151.78	百万円	技術高度化の期間	平成26年度～28年度

- 住宅等における環境対策や健康向上に資する技術開発
- 住宅等におけるストック活用、長寿命化対策に資する技術開発
- 住宅等における防災性向上や安全対策に資する技術開発

背景・目的	背景：①住宅全体の2次エネルギー消費量の1/3が給湯であること②原子力施設停止等更なる省エネが必須③世界的な気候変動に伴う広範囲な水不足の懸念 目的：②住宅の二重配管構造即湯方式適用により建築物全体省エネ拡大②効率的な節水策達成③即湯性達成により高齢者ヒートショック防止・バスタイム等使用勝手不快感解消				
-------	--	--	--	--	--

■ 技術開発の概要



二重配管構造先分岐継手20A(内管13A)

- (左から順) ①エルボ ②同径チース ③元分岐チース
④異径ソケット ⑤胴長オスタダプター
⑥オスタダプター ⑦メスタダプター

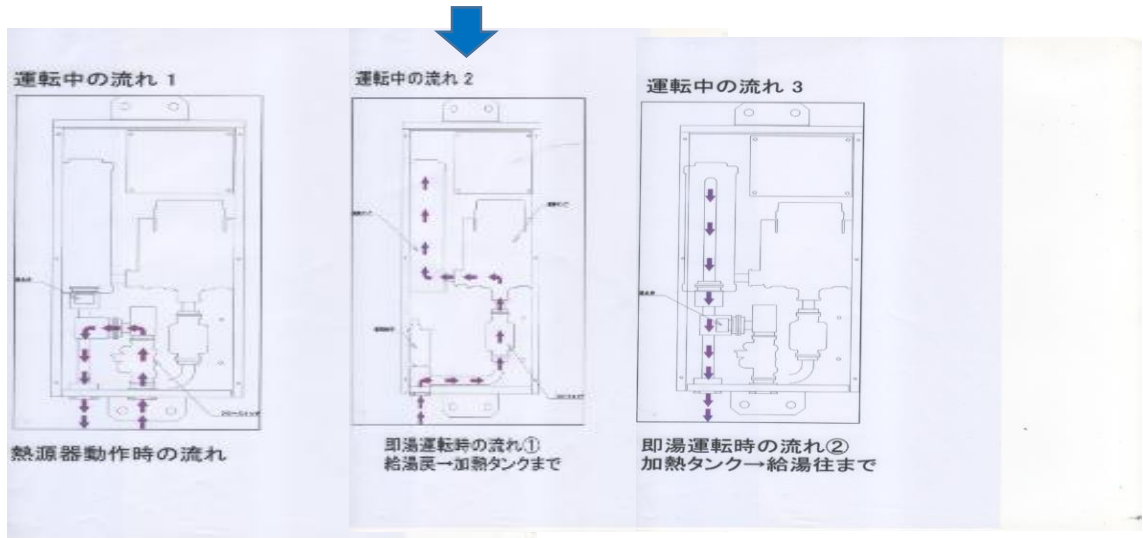


二重配管構造先分岐大口径継手技術開発

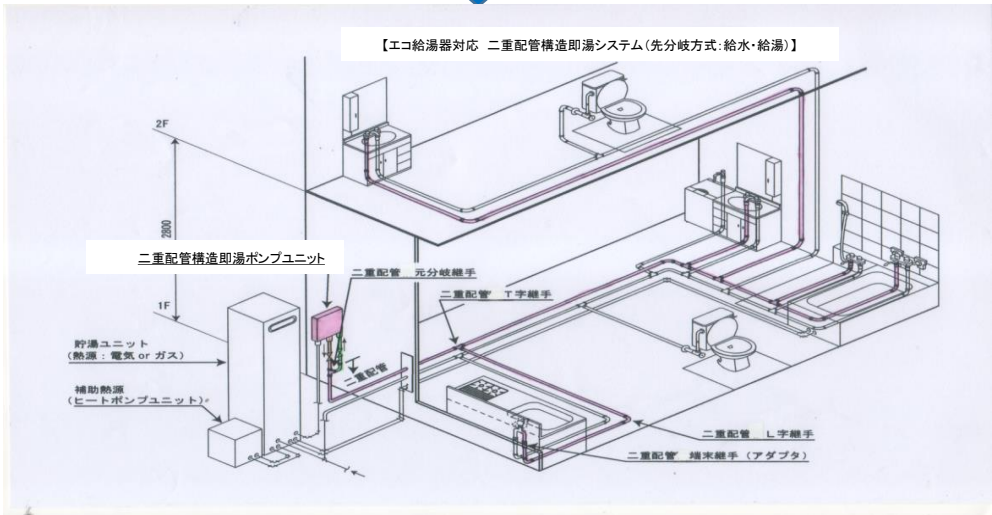
- ①30A(内管20A)・40A(内管25A)・50A(内管30A)各元分岐チース, エルボ, チース, オスタダプター試作
②主給湯立管省エネ効果等実証実験
③凍結防止給水循環システム実証実験

給湯循環ポンプユニット商品化ポイント

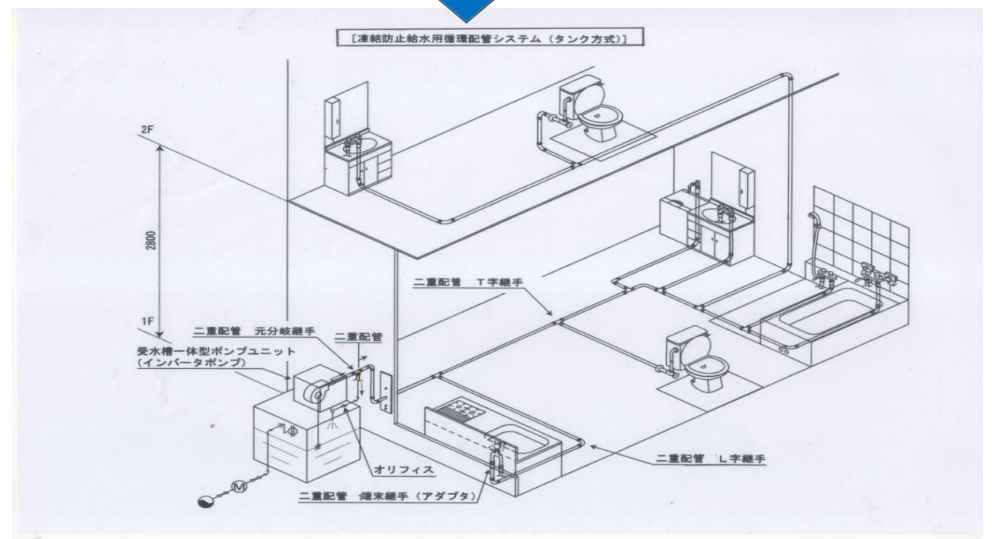
- ・熱源器動作時フローズイッチ感知、ポンプユニット強制稼働停止、省エネ効果向上
- ・二重配管構造還温度センサー感知、循環ポンプ稼働・加熱タンク内ヒータ昇温、適正ヒーター容量設置、省エネ効果向上
- ・平日休日モード設定、外出等強制停止予約、簡単リモコン操作で省エネ向上
- ・凍結地域二重配管構造継手利用、凍結防止給水システム工法確立省エネ効果等確認



電気エコ給湯対応二重配管構造給湯循環ポンプユニット設置要領



凍結防止給水二重配管構造端末循環ポンプユニット実用化



総評

集合住宅用の給湯配管システム等の技術開発について、着実に成果をあげている。最終年度であることから、効果検証及び着実な実用化に注力すること。